



ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No. 261

2018年

3～4月号

行 事 案 内

3月手賀沼探鳥会

期 日 3月11日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 案 内 間もなく去る冬鳥に別れを惜しみつつ、オオジュリンやカムリカイツブリの夏羽への移行が見られればよいですね。気の早い夏鳥との再会が期待できるかも知れません、じっくり観察しましょう。

解 散 正午
 担 当 松田

4月手賀沼探鳥会

期 日 4月8日(日) 雨天中止
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 案 内 桜開花の便りを日々耳にする気候になり、しかしまた花冷えも予想される、冬鳥たちとの別れの季節になりました。渡り鳥の入れ替わりの様子や春を迎えた鳥たちの囀り、ディスプレイをも楽しみましょう。

解 散 正午
 担 当 松本

3月、4月ピオトープ調査

期 日 3月1日(木) 雨天延期
 4月5日(木) 雨天延期
 集 合 手賀沼ピオトープ 午前9時30分
 案 内 3-4月はまだ冬鳥が見られ、3月はホトケノザ、ヒメオドリコソウ等の野草の花が咲き始め、越冬した蝶キタテハ、テントウムシが見られます。4月にはカラスノエンドウ、アリアケスミレ等の花が咲きツクシも出、サクラ、レンギョウの花も咲きます。それらの蜜を求めモンシロチョウ、ベニシジミ等も飛びだします。昨年3月26種、4月23種の野鳥が観察出来ました。春の雰囲気を感じながら探鳥をしてみましょう。参加希望の方は下記までご連絡頂き、当日は五本松公園キャンプ場の駐車場に9時にお越し下さい。

解 散 午前11時30分
 担 当 鈴木静治
 Tel: 080-3121-4757

3月、4月手賀沼定点カウント

期 日 3月6日(火) 雨天延期
 4月3日(火) 雨天延期
 集 合 我孫子市役所 午前9時
 解 散 正午予定

担当 金子雅幸、船津登、桑森亮
連絡先 桑森亮
Tel: 04-7182-3149

行徳・江戸川探鳥会(再掲載)

期日 3月4日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅改札口 午前7時50分
または行徳駅 午前9時
定員 20名
案内 江戸川(放水路)河口、行徳鳥獣保護区でカイツブリ、サギ、カモ、ウミアイサ、タカ・ハヤブサ、カモメ、越冬シギチ類などを観察してみましよう。行徳野鳥病院も見学します。なお、行徳鳥獣保護区はぬかるみが多いので長靴が必要で、行徳野鳥観察舎スタッフの案内でまとまって行動します。この探鳥コースにはコンビニがありませんので、お昼ご飯は持参または途中の駅中・前のコンビニで買い求め下さい。行徳鳥獣保護区の中にはトイレがありませんので、入る前に済ませて下さい。

持物 観察用具、雨具、長靴、防寒具、昼食

交通 電車

我孫子 8:02 8:15 新松戸 8:19 8:34 西船橋 8:42 8:50 行徳

行徳駅 江戸川河口 行徳保護区間はバスで移動(バス代 360円)

解散 15:30頃、現地解散

(帰りは行徳保護区近くの行徳高校前より新浦安駅、市川塩浜駅行きのバスが便利)

申込 弘實和昭まで

Tel: 04-7185-2695

担当 相良直己、弘實和昭

波崎・銚子探鳥会

期日 3月18日(日) 雨天中止
集合 我孫子駅北口 午前7時30分

案内 波崎漁港、銚子漁港を巡る探鳥会です。この両漁港は日本有数のカモメ観察のメッカで、3月になると渡りのカモメが集結し膨大な数になります。カモメの基本8種をはじめニシセグロカモメやカナダカモメなど珍しい種も毎年観察されています。カモメは種類だけでなく年齢によって羽色が変わり識別が難しいですが、だからこそその楽しみもあります。カモメウォッチングで識別にもチャレンジしてみましょう。また、カモメ以外でもクロガモ、シノリガモ、ウミアイサ、ヒメウ、アカエリカイツブリ、クロサギなども期待でき、太平洋荒波の漁港ならではの珍鳥が出現するかも知れませんね。

交通 自家用車分乗です。便乗者は一人1,500円を運転者にお渡しください。申し込みの際、自家用車を提供可能な方はその旨ご連絡ください。

持物 観察用具、雨具、防寒具、昼食(途中購入可)

申込 千葉洋まで

Tel: 090-2434-4937

担当 桑森亮、千葉洋

葛西臨海公園探鳥会

期日 4月21日(土) 雨天中止

集合 我孫子駅改札口 午前7時50分
又は葛西臨海公園駅、駅前広場 9時

案内 シギチ渡り探鳥の定番となった春の葛西臨海公園を昨年に続いて訪れます。天候に恵まれれば、干潟に集う多くの鳥たちを観察できることが期待されます。昨年は、クロツラヘラサギ、ホウロクシギのほか、珍客アオバトを観ることができました。今年は何種のシギチに出会えるのでしょうか？

沖合のスズガモの大群も旅立ち前かも知れません。江戸川水路ではカンムリカイツブリ、ハジロカイツ

りを身近に見ることができでし
ょう。

鳥類園では、ホシハジロ、キンク
ロハジロ、ハシビロガモなどのカモ
類が残っているかもしれません。

昨年は48種の鳥たちに出会うこ
とができました。

交 通 我孫子 8:02(千代田線) 8:15
新松戸 8:26(武蔵野線、東京行き)
9:00 葛西臨海公園
持 物 観察用具、雨具、昼食(葛西臨海
公園駅の売店で購入可)
申 込 千葉洋まで
Tel: 090-2434-4937
担 当 桑森、相良、千葉

< 間野吉幸 >

なぜ、我孫子が野鳥のホットポイントな
のか。飛来種の多様性とその変遷を楽し
みながら学びましょう。

参加者へは、間野会長自らが編纂された
「我孫子産野鳥リスト」が配られ275種
の観察頻度、環境、食性、生息地の貴重
な資料になるでしょう。

“属”を知ろう！ < 松田幸保 >
生物の分類では、「科」の上に「目(モ
ク)」があり、「科」の下には「属」があ
ります。「〇〇科」の中でも“親戚”か
否かで「属」として分類を定めています。
意外なリストアップにびっくりされる
鳥名が出てくるでしょう。

日 時 3月19日(月) 9:30~11:30
場 所 水の館 3F 研修室
会 費 一人300円(茶菓子代)
申 込 松本勝英まで
Tel: 04-7187-1704
担 当 間野、松田、松本

3月役員会案内

日 時 3月11日(日) 13:00~15:30
(開始時刻に注意！)
場 所 水の館 3F 研修室
議 題 平成30年度定期総会について
・平成30年度定期総会次第
・平成29年度事業報告・決算
報告(案)
・平成30年度事業計画・予算
(案)
会報262号掲載予定記事につ
いて
バードウィーク手賀沼探鳥会
について
報告事項
・対外対応状況 他
その他(議題のある場合は桑森
までご連絡ください。)

平成30年度定期総会

平成30年度の定期総会を下記の通り開催
します。当会の事業計画、予算等を審議・決
定する重要な会議ですので、皆さんご都合を
つけ、ご出席下さい。

記

日 時 4月8日(日) 13:30~15:00
場 所 水の館 3F 研修室
議 題 平成29年度事業報告、決算報告
(案)
平成30年度事業計画、予算(案)
その他

第29回「野鳥サロン」のご案内

従前の形式としては、最後の野鳥サロンです。
多数の参加をお待ちしております。
テーマ:

我孫子の鳥(我孫子の野鳥図鑑より)

行事日程の変更

上期行事2件は日程が変更になりました。
・裏妙義・伊香保森林公園探鳥会: 5/27~28
・映写会・懇親会: 7/15

行事報告

12月手賀沼探鳥会

日時 2017.12.10 9:00~12:00
 晴 無風 15

この時期としては暖かな絶好の探鳥日となり、今年最後の定例探鳥会ということもあり総勢 35 名が参加しました。うち 6 名が初参加です。

手賀沼には珍しいトモエガモ、ヨシガモが入っているため、それを探すためお立ち台での時間を少し増やし、その途中はやや速足での探鳥会となりました。いつも鉄塔の上で迎えてくれるハヤブサは留守でした。葦原ではオオジュリンとホオジロが並んで採餌していてその違いがはっきりと分かります。期待したお立ち台では水鳥の数が数日前に比べ激減しています。それでもミコアイサ、ヨシガモを多くの方が観察できたのは収穫です。残念ながらトモエガモは見つからず、来月に降に期待することになりました。結局参加者数を大きく上回る 45 種の鳥を観察でき、この時期ではまあまあ探鳥会になりました。<認めた鳥> キジ、コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ノスリ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計 45 種 番外：カワラバト

<参加者> 藤川敏彦、野尻清敬、江原園子、肥後邦彦、桑森亮、川村美恵子、鍋倉妙子、相馬唐代子、松本勝英、千葉洋、村瀬和則、常盤孝義、西嶋昭生、小池忠彦、古出洋子、松田幸保、金子幸子、間野吉幸、森本宜久、菊地幸雄、菊地昌江、野倉元雄、坂聡子、坂

ほのみ、坂拓真、小林博之、相良直己、船津登、坂元孝行、坂元貴子、高波宣子、石井俊子、渡辺政一、佐和橋みどり (担当) 小澤淳宏 計 35 名

12月手賀沼定点カウント

調査日時 2017.12.1 9:00~12:30
 曇り 北風冷たし 7~9

上沼ではユリカモメの群舞が楽しめ、コガモも相当数確認できた。下沼では過去見た事も無い様な圧倒的な数のオナガガモが見られた他、ヒドリガモ、マガモ、コガモなどのカモ類が沼面を覆い、こんな光景が毎年見られたら...と思わずにいられない。

今年の累計数字が、2002 年以來の 9000 羽に近い嬉しい数字となった。(水鳥のみの累計数=8,923 羽)

調査種	上沼	下沼	合計
コブハクチョウ	21	31	52
オカヨシガモ	73	0	73
ヒドリガモ	0	135	135
マガモ	0	95	95
カルガモ	37	29	66
オナガガモ	0	933	933
コガモ	235	116	351
カイツブリ	9	5	14
カンムリカイツブリ	56	49	105
ハジロカイツブリ	9	3	12
カワウ	14	64	78
アオサギ	16	1	17
ダイサギ	1	5	6
コサギ	4	16	20
バン	2	0	2
オオバン	10	27	37
ユリカモメ	245	17	262
セグロカモメ	5	1	6
合計	737	1527	2,264

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計 3 名

1 2 月 手 賀 沼 ビ オ ト ー プ 調 査

調査日時 2017.12.7 9:30~ 11:45
晴れ 弱風 8-13

斜面林の紅葉は陽が当たると赤、黄、茶、緑と綺麗。沼にはあまり多くの水鳥が見られない。田は二番穂で一部田起こしされている。今回は冬鳥の種類が多く観察出来た。観察した野鳥 29 種、他に木の花 2 種、実 6 種、野草の花 2 種、新芽 1 種、花穂、実 6 種、小動物 1 種を観察した。水田ではトラクターの田起こし直後の田にタヒバリ、ツグミ、ハクセキレイ、ハシボソガラスが餌探し。ビオトープの葦原でアオジ、オオジュリン、ウグイス、ホオジロが地鳴きし、キジが飛び出す。木にモズが止まり、森でヒヨドリが鳴く。楠の大木にアカハラ、シロハラ、ツグミ、キジバトが止まる。池ではカルガモ、カワウ、コガモが泳ぎ、ダイサギ、コサギが餌探しのため飛来する。池の中島の木にカワセミが止まり小魚を狙う。上空をミサゴが飛ぶ。沼岸の葦原近くにカルガモが多く、コガモ、オオバンが泳ぎ、上空をオナガガモの群れ、ユリカモメ、コサギ、アオサギが飛ぶ。沼岸の葦原ではウグイスの地鳴き、柳、桜の木にアリスイが止まる。なお観察範囲外の田の上空でノスリが、沼の上空でミサゴがカラスにモビングされる光景が見られた。

< 認めた鳥 > キジ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、キジバト、カンムリカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、ミサゴ、カワセミ、アリスイ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、シロハラ、アカハラ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計 29 種 193 羽。

< 調査者 > 鈴木静治、船津登、間野吉幸、古出洋子 計 4 名

1 月 手 賀 沼 探 鳥 会

日 時 2018.1.14 9:00~ 12:00

晴 弱風 7

今年初めての定例探鳥会で、参加者が 40 名と多く幸先の良いスタートになりました。天気も後押しし、青空がきれいで、風もほとんどなく穏やかな日です。第 2 機場で杭に止るノスリが見られ、95 号鉄塔には、ハヤブサが止っていました。ヒドリ橋までの道から、上沼ではあまり見られないホシハジロ、キンクロハジロが見られた。ヒドリ橋からは沼の杭に止るミサゴ、葦原から飛び立つオオタカが見られた。今回は、通常コースにオナガガモの群れ、オオハクチョウを期待し、ハス田の探鳥を追加しました。ハス田の中で休むオナガガモの大群、マガモなどが見られ、対岸の我孫子側を泳ぐオオハクチョウが確認されました。お立台からは、手賀沼では珍しいトモエガモが認められました。認めた鳥は、49 種とこちらも、昨年より多く幸先の良い年の始まりの探鳥会となりました。

< 認めた鳥 > キジ、コブハクチョウ、オオハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、ハヤブサ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計 49 種
番外 カワラバト

< 参加者 > 村瀬和則、肥後邦彦、坂元孝行、坂元貴子、小池忠彦、マイケル・ノートン、桑森亮、嶋崎省、千葉洋、佐藤貴子、間野吉幸、菊地幸雄、菊地昌江、西城猛、榎本右、相馬唐代子、石渡成紀、小林博之、西嶋昭生、高波宣子、相良直己、野倉元雄、金子幸子、類地佑子、松田幸保、小澤淳宏、関口英治、関口久実、関口優香、宮本秀樹、浅野利幸、鍋倉妙子、小林寿美子、徳重玲子、常盤孝義、岩田孝之、野口隆也、百瀬喬、鈴木静治（担当）船津登 計 40 名

1月手賀沼定点カウント

調査日時 2018.1.5 9:00~12:50

曇り 無風 1~5

気温は低かったが無風が幸いし、上沼ではクイナがじっくり見られミサゴのハンティングも見られた。下沼でも、ハス田だけであって見た事も無い様なオナガガモの塊があちらこちらに点在し、その場だけで3000羽近いカモが見られた他ハイロチュウヒのおまけまで。更に染井入落では100羽近いトモエガモの群れとヒシクイにも遭遇し、1日で4000羽以上は我々初めての経験。

調査種	上沼	下沼	合計
コバハクチョウ	31	46	77
ヒシクイ	0	1	1
オナガガモ	23	0	23
ヨシガモ	0	2	2
ヒトリガモ	0	34	34
マガモ	0	118	118
カルガモ	53	33	86
オナガガモ	3	2705	2708
トモエガモ	0	98	98
コガモ	457	74	531
ホシロ	7	27	34
ミコアイサ	4	3	7
カイツブリ	22	4	26
カンムリカイツブリ	17	20	37
ハシロカイツブリ	8	1	9
カワウ	26	21	47
アオサギ	24	2	26
ダイサギ	1	7	8
コサギ	4	3	7
クイナ	1	0	1
バン	0	2	2
オオバン	29	61	90
ツギ	0	3	3
ヨリカメ	46	21	67
セグロカメ	0	2	2
合計	756	3,288	4,044

<調査者> 桑森亮、船津登、金子雅幸 計3名

1月手賀沼ビオトープ調査

調査日時 2018.1.11 8:30~11:10

快晴 無風 10

無風、快晴でビオトープ、沼岸で小鳥、水鳥が種類、数も多く見られた。鷹もノスリ、範囲外の沼上空でミサゴが見られた。白き富士山も見られた。田は多くが田起しされ、畦近くにジョウビタキ、他にホオジロ、ムクドリが見られた程度で鳥は少ない。ビオトープは池にカルガモ、コガモ、カイツブリ、コサギ、ダイサギ、アオサギ、カワセミが見られ、葦原にアオジ、オオジュリン、ホオジロ、ウグイス、シジュウカラ、スズメが観察され、上空をカワウ、ハシボソガラスが飛ぶ。沼岸の葦原にはビオトープと同じ小鳥がみられ、葦原よりキジが飛び出す。水辺ではビオトープと同じ水鳥の他にオオバン、バン、コバハクチョウ等が泳ぎ、上空をセグロカモメが飛ぶ。観察した野鳥は27種。他に木の花1種、蕾2種、実7種、野草の花1種、葉の口ゼット1種、花穂、実4種、虫1種、モグラの盛土を観察出来ました。

<認めた鳥> キジ、コバハクチョウ、カルガモ、コガモ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、バン、オオバン、セグロカモメ、ノスリ、カワセミ、モズ、ハシボソガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ホオジロ、アオジ、オオジュリン 計27種 150羽。

<調査者> 鈴木静治、間野吉幸、船津登、金子雅幸 蒲田知子、池田日出男 計7名

渡良瀬遊水地探鳥会

12月17日

~ハイロチュウヒは現れず、でも...~

植田禮子

快晴のもと我孫子を出発しました。しばらく行くと埼玉県にはいり、目の前にびっくりするほど大きく雪にけぼっている富士山がきれいに見えました。

今回の目的地である渡良瀬遊水地は、栃木、群馬、埼玉、茨城の4県にまたがる面積33

k m²の場所で、まずその広さにびっくりしました。一面のよし原を、車にのせて頂いての移動でした。

探鳥は初心者ですので、皆さんの集まっている所に行くと、カワラヒワ、シメが見えました。シメは集団でいたので、特徴のある顔がよく観察できました。

水鳥の観察ポイントでは、ヨシガモ、カンムリカイツブリ、そしてミコアイサが見えました。ミコアイサをスコープで覗かせて頂くと、雄と雌が4羽ずつ、つかず離れずの程よい距離を保つ様子がよく見えました。風がきつく上下に揺れているのに間隔が乱れないのは、よほど足で踏ん張っているのかと思いました。雌の茶色い頭の羽が風に逆立っている様子もかわいかったです。

遊水地は日本屈指のワシ・タカ類の越冬地とききます。鷹見台では、トビの見分け方、チョウゲンボウ、ノスリも教えて頂きました。皆さんが待ちに待っていたハイイロチュウヒは現れませんでした。いつか出会えるといいなと思いました。

最後に下見までしていただきました幹事の方々、皆様に大変お世話になりました。ありがとうございました。自然に親しむのはとても気持ちのいいものでした。

今回、鈴木様ご夫婦にも大変お世話になりました。車内でのご夫婦の温かい会話にもほっこりさせられました。感謝いたします。

【幹事報告】

我孫子を出発した時は快晴で、絶好の探鳥日和かと思われたが、現地に着くと次第に風が吹き始め、寒気も加わって厳しい天候下での探鳥会となった。

我孫子を出発、国道16号線を経て、新4号線バイパスに入り、途中「道の駅庄和」でトイレ休憩、その後354号線を経由して渡良瀬遊水地北口から遊水地内に入り、谷中村史跡保存ゾーンに到着。所要時間2時間弱。

渡良瀬遊水地はヨシ原が広がる大湿地帯。面積は33k m²に及び、観察ポイントを絞り込み、車で移動した。観察ポイントは、谷中村史跡保全ゾーン、東谷中橋、谷中橋付近の池内水路、鷹見台、桜つつみ(昼食、トイレ休憩)、第3排水門付近、第1調節池付近。

風が強く探鳥条件としては決して良くは

なかったが、46種の野鳥を観察できた。

最初の谷中村史跡保存ゾーンではヨシ原に潜むベニマシコや大木の枝に止まるシメ、ジョウビタキ等を観察できた。また、第3排水門付近では空中に舞うチョウゲンボウやノスリを確認でき、第1調節池の用水池では、ヨシガモの群れやミコアイサのつがい数組等が観察できた。最後に今回の目玉でもあるハイイロチュウヒの嶋入りを見るため、ヨシ原越しに望める場所を探し移動、待つこと2時間弱、一向に現れず(遠くに飛来するのを見たという人もいたが)、時間切れとなり、遊水地を出て「道の駅きたかわべ」で鳥合わせを行い、5時前に解散した。

<認めた鳥> ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハイイロチュウヒ、ノスリ、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ミヤマガラス、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、ベニマシコ、シメ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計46種 番外 カワラバト

<参加者> 船津登、神部充、村井みとい、金子幸子、関口英治、関口久実、小林博之、小林美智子、坂元孝行、坂元貴子、野倉元雄、鈴木静治、鈴木裕爾、鈴木幸子、高波宣子、植田禮子、桑森亮、大久保陸夫、浅野利幸、マイケル・ノートン、渡辺政一、吉田隆行、百瀬喬、新堀正則、中西榮子、中根忠(幹事)野口隆也、石渡成紀 計28名

江戸崎・神之池・小見川 探鳥会

1月8日

~ “ヒシクイ” との再会に感動! ~

新堀正則

去る1月8日(祝)に我孫子野鳥を守る会に入会してから二回目の遠出探鳥会に参加いたしました。今回も本当に子供のころの遠足

の時のようなワクワク感で探鳥会の日を心待ちにしていました。

江戸崎のオオヒシクイは関東唯一の越冬地だそうです。思えば学生時代に出水でヒシクイを観察したきりでしたので、約30年ぶりの再会になります。あの時はマナヅル、ナベヅルの1万羽の喧騒の中での出会いでしたので印象がとても薄く、今回のように124羽まとまって観察できたのは、とてもうれしかったです。なかでもいっせいに飛び立ち、その雄大な飛翔姿を観察できたときは、とても感動しました。

神之池では、カモ類も観察するには遠く、ミコアイサも1羽のみで、さびしい印象でした。また昼食をとり始めたあたりから小雨が時折降るようになってきました。次のポイントの小見川ではハイロチュウヒが期待できるとの事でしたので、天候が悪化しないうちに移動することになりました。

小見川堤防に着いて、その雄大さに驚きました。どこまでも続くような広大な葦原の遠くに猛禽がポツリポツリと飛んでいるかと思えば、遠くの電柱にはノスリが何羽も羽を休めています。割と近くの電柱では、今捕って来たばかりであろう大きな魚をミサゴが悠々と食事をしていました。スコープでみると獲物の魚の鮮明な赤い血が確認でき、猛禽であることが再確認できました。しばらくすると、ミサゴは少し離れた電柱に移動したのですが、面白いことにカラスがミサゴと同じ電柱に顔を付け合わずように隣に留まったのです。まるで仲の良い恋人同士のようでとても微笑ましい光景でした。まだ14時前だったこともあって、ポイントを甘田干拓地に移すことになりました。そこでハイロチュウヒやコミミズクを探すとのことでした。

甘田干拓地に着くころは、小雨がしっかりと降ってきました。観察は無理かなと思ったのですが、到着すぐに何羽かのコミミズクを観察することが出来ました。何度見ても、あの坊主頭での飛行姿はユニークです。いつまでも見ていたいほどでした。

個人的には自分の思いつきでスコープにスマホをくっつけて撮影するやり方が、何人かのお姉さんたちに好評だったのが、印象的でした。まるで少女のように純粋にスマホでコミミズクが撮れたと喜ぶ彼女たちを見て、

とても素敵だなと思いました。

野鳥が好きな仲間とともに、野鳥を一生懸命探して、観察して、写真に撮って、そして喜んで、仲間も野鳥も好きで愛することが出来る人たちって、本当に素敵ですね。

私も、そんな人になりたいし、仲間になりたいなと心から思いました。

最後に幹事さん、皆様、ありがとうございました。次の探鳥会も、楽しみにしています。

【幹事報告】

心配だった雨は夕方ということで、昨年と同様に江戸崎に先に寄るコースで出発した。稲波干拓地に着くと、小野川にはオナガガモが沢山おり、一部は我々の足元にまで来た。オオヒシクイは比較的近い場所にいたので、じっくり観察できた。農道に車が入ってきたので全部が飛び上がり、しばらく旋回をした後にやや離れた場所に着地する光景が見られたのは幸運だった。

神之池に着くと対岸に数十台の消防車がずらりと並び、一部が放水している情景には驚いた。出初式らしい。下見時からカモは少なかったのが、より減った印象を受けたのはこのせいかな。ここの売りのミコアイサは年々数が減っている印象だ。雨が降り出したので、早めに切り上げて小見川に向かったが、土手に着くと雨は問題なくなっていた。

タカは一通り出たが、例年よりにぶい。ハイロチュウヒを期待する雰囲気があり、甘田干拓地に行ってみるようになった。桑森車先導で現地に向かったが、あいにく途中から雨になった。車中からの観察でコミミズクが見つかったら、小雨だったのでみな車外に出してしまった。やや距離はあったが、観察はしやすかった。発酵の里こうざきで、雨にぬれずに鳥合わせをして解散した。

<認めた鳥> キジ、オオヒシクイ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、タゲリ、タシギ、イソシギ、ユリカモメ、ウミネコ、セグロカモメ、オオセグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、オオタカ、ノスリ、コミミズク、カワセミ、チョウゲンボウ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、

エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、オオジュリン 計 51 種 番外 シナガチョウ、カワラバト

<参加者>鈴木裕爾、鈴木幸子、中根忠、間野吉幸、相良直己、大久保陸夫、渡辺政一、金子雅幸、浅野利幸、江原園子、桑森亮、相馬唐代子、新堀正則、津村勝吉、石井俊子、坂元孝行、坂元貴子、森本宣久、渡邊俊文、古賀嗣朗（幹事）小澤淳宏、松田幸保 計 22 名

本 埜・印 旛 沼 探 鳥 会

1 月 22 日

～楽しかった探鳥会～ 中根文世

久しぶりの探鳥会。とても寒い朝。吉高揚排水機場でモモイロペリカンが寒い中、元気でいました。土手の上から初めて見たヒクイナは、とてもきれいでした。昼より別所谷津公園の調整池でトモエガモ、オシドリなど、房総のむら坂田ヶ池でミコアイサに久しぶりに逢えて、とても楽しい探鳥会でした。ありがとうございました

～初めてのヒクイナ～ 相馬唐代子

印旛沼吉高揚排水機場の土手から水辺を眺めると、いつも沢山の水鳥がいますが、今日の水辺に水鳥の姿はあまり見えません。「残念」と思っていました。アシの茂みからヒクイナが現れて吃驚！！始めて見るヒクイナは、おひさまの光が当て、輝く赤い眼、顔からお腹は赤褐色でそのうしろは白黒の縞模様があり、ときどき尾羽をピクリ、ピクリと跳ね上げて白黒の縞模様をチラリと見せてくれました。非常に警戒心の強い鳥と聞いていましたが、アシの茂みに何度も出たり入ったりして、餌探しに夢中だったのでしょうか？お陰でゆっくりと観察ができてシャッターチャンスにも恵まれた。ラッキーな一日でした。

～久しぶりの探鳥会参加～ 小玉信子

早朝の深い霧もきれいに晴れ絶好の探鳥日和に恵まれました。

第一スポットの印旛沼では、モモイロペリカンの「カンタ君」が小舟の上で待っていました。近くによっても全然平気で、まるでスター気取りでポーズをとっている様、かわいかったです。さて探鳥開始、印象に残ったのはナポレオンハットのヨシガモや、とても珍しいヒクイナは胸と顔の緋色がとてもきれいで感激しました。

第二スポットの坂田ヶ池へ。たくさんのカルガモ、マガモ、一羽だけのミコアイサ、ハシビロガモ等々。

第三スポットの印西市別所の調整池へ。トモエガモ、オシドリ、キンクロハジロに出会えました。そのほかたくさんのカルガモ、マガモ、ホシハジロを見ました。

しばらくバードウォッチングから遠のいていたのですが、今年はできるだけ参加したいと思います。今日は楽しい一日を過ごしました。ありがとうございました。

【幹事報告】

午前 8 時に我孫子駅北口に集合し、車 4 台に分乗し印旛沼に向け出発。途中濃霧がひどく、印旛沼の吉高揚排水機場近くで霧は薄くなる。9 時頃、吉高揚排水機場近くの沼岸の船着場の船上にいるモモイロペリカンのカンタ君が見える。二十数年前籠脱けし、漁師さんより魚を貰っているので全く人を怖がらずポーズをとる。皆で撮影する。その後、堤防上のサイクリングロードから沼の水鳥を観察する。下見の時、岸近くに相当多く見られたヨシガモが見当たらない。スコープで対岸を探すと、葦近くの水辺に群れ休んでいるようだ。暫く見ていると少しずつ動き出し、沖から我々のいる岸の方へ動きやっと近くで見えるようになる。他の多くのカモ類、カイツブリ類、サギ類、カモメ類、カワウ、トビ、ミサゴ等を見ていると、岸の葦の間から水辺の水草の上にヒクイナのお出まし。堤防の上から観察していたので見やすく、皆さん盛んにシャッターを押していた。9:50 頃甚兵衛公園に車で移動する。ところが甚兵衛公園から行ける印旛沼の堤防は、重機が入った工事中で、また甚兵衛の渡しの沼側には水鳥がほとんどいなく、急遽、この近くにある房総のむらの坂田ヶ池総合公園に車で移動する。坂田ヶ池にはマガモ、カルガモが多く他にホシハジロ、コガモ、ハシビロガモ、ミコ

アイサも見られた。丘ではシロハラ、ヤマガラ、ジョウビタキ、ツグミ、コゲラ等を観察した。11:50頃甚兵衛公園に戻り持参の弁当、または台方ラーメン店で昼食を摂る。12:25頃別所の谷津田公園に向かう。12:50頃牧の原地域交流センターの駐車場に車を止め、公園の調整池の上池で水鳥の観察を始める。お目当てのオシドリが20~30羽、木の茂る薄暗い岸に休んでいる姿が見えた。の三列風切は変形して大きく鮮やかな橙色の銀杏形の羽となり、銀杏羽は翼を閉じたときには振り返って背から突き出し目立つ。他に池にはホシハジロ、マガモ、カルガモ等が休んだり泳いだりしていた。暫く見ていると、オシドリの対岸の木に覆われた水辺になんとトモエガモがいるではないか。今年は手賀沼でも群れが観察されている。絶滅危惧種である。なかなか動いてくれなかったので、池の遊歩道を通り、下池に回るが殆ど水鳥はいなかった。また以前は遊歩道の両側に林があったので、シメ、シロハラ、アカハラ、アカゲラ等の多くの種類が見られたが、今回は池側の片側の林しかないためコゲラ、メジロ、カワラヒワ、シジュウカラ等を見るのみであった。この調整池を源流とする古新田川周辺の休耕田の葦原では葦、柳に止まるホオジロ、カシラダカ等が見られたが、昼過ぎのためか鳥の数は少なかった。それでも上空をハイタカ属が1羽上空を滑空し、上昇するのを観察出来た。15:00頃地域交流センターのロビーにて鳥合わせをし、現地で解散した。

<認めた鳥> オシドリ、オカヨシガモ、ヨシガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、トモエガモ、コガモ、キンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、キジバト、カワウ、モモイロペリカン、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ヒクイナ、バン、オオバン、タゲリ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、ハイタカ属、ノスリ、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、オオジュリン 計52種

<参加者> 大久保陸夫、小澤淳宏、金子雅幸、

桑森亮、古賀嗣朗、小玉文夫、小玉信子、相良直己、関口英治、相馬唐代子、千葉洋、中根忠、中根文世、間野吉幸 (幹事)石井俊子、鈴木静治 計16名

井頭公園探鳥会

2月3日

~初めての井頭公園探鳥会~

菊池昌江

バスで行く探鳥会に初めて参加しました。バスの中では、鳥の説明付きのビンゴのあと2つの班に分かれて見た鳥の数を競うことが発表され、窓の外を見るとノスリがバスの横を同じ方向に飛んでいました。

途中寄り道をして、モンゴルにいるアカハシハジロというオレンジ色の頭に赤いくちばしのきれいな鳥を見ました。他のカモ類もたくさんいて、手賀沼ではスコープで見る鳥を双眼鏡で見られました。

井頭公園では、バスを降りるとすぐにコゲラが出迎えてくれました。鳥見亭でガイドの方の説明を聞き、昼食を済ませ、先ほどの池にはいなかったミコアイサを見たあと、A班B班に分かれて鳥を探しました。シロハラがくちばしで葉をどかしながら虫を探していたり、シジュウカラがメスを取り合って激しく飛び交っていたり、エナガが可愛い声で鳴きながら頭上を移動していたり、ジョウビタキが近くのフェンスの上に止まってくれたりしました。

楽しみにしていたルリビタキやベニマシコを私は見られませんでした。家族に見た鳥の話しながら、道の駅で買った美味しいイチゴを食べました。たくさんの鳥を近くで見られてとても楽しかったです。

幹事の方々ありがとうございました。

【幹事報告】

一週間前の大雪そして2日前の雪予報、インフルエンザの猛威に中止にすべきか、決行すべきか判断が難しい状況でしたが、宇都宮の気象の確認では天気の回復と現地の雪も大丈夫、インフルエンザのキャンセルも無しとのことで決行することにしました。今回はいつものコースに桜テクノ公園の追加を運賃の増額もなく快く引き受けてくれたア

第 28 回「野鳥サロン」

ピコ西部観光バスを利用することになりました。

8 時定時に我孫子出発。通例の二宮道の駅でトイレタイムを済ませた後、桑森さん情報による大変珍しいアカハシハジロを見に桜テクノ公園に向かいました。私たちを待っていたかのようにアカハシハジロ、キンクロハジロ、ヨシガモ、トモエガモなどたくさんのカモの探鳥に大いに湧きました。

名残惜しいとの声もありましたがあまり時間の余裕がなかったので 30 分程度の滞在後、井頭公園に向かいました。到着が 11 時 30 分過ぎでしたので鳥見亭での調査員の情報を伺ってから昼食を摂り、恒例の 2 班に分かれてのバードソンでは A 班は反時計回り、B 班は時計回りで開始。結果は A 班 48 種、B 班は 50 種で B 班の勝利でした。

予定より少し早めの 2 時 15 分出発、途中の二宮道の駅で美味しいイチゴを買い求め 17 時ジャストに我孫子到着解散となりました。

< 認めた鳥 > オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、トモエガモ、コガモ、アカハシハジロ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、オオバン、トビ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、チョウゲンボウ、モズ、オナガ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、キクイタダキ、コガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、タヒバリ、アトリ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、シメ、アオジ 計 54 種 番外 カワラバト

< 参加者 > 間野吉幸、相良直己、小林博之、船津登、渡辺政一、坂元貴子、金子幸子、石井俊子、高波宣子、小玉文夫、小林千恵子、森本宣久、徳重玲子、桑森亮、大久保陸夫、野倉元雄、鈴木裕爾、青木典子、相馬唐代子、菊池幸雄、菊地昌江、金子雅幸、井上正、吉田隆行、染谷迪夫(幹事) 小林寿美子、松本勝英 計 27 名

第 28 回野鳥サロンが 1 月 28 日に開催された。場所はアピスタ第 2 学習室。直前に大雪が降るなど寒い気候のなか 26 名が参加する大盛況の会となりました。最新の幹細胞に関する講演では当会会員で公益法人河野臨床医学研究所所長の常盤孝義さんから会員向けに特別に解りやすく、時にはジョークを交えた説明をしていただき、参加者全員が真剣かつ熱心に聴きつつも内容の理解に頭を絞りました。後半の野鳥の好む樹木についてのクイズ形式の発表では意外な答えに和気あいあいの楽しい会となり、脳細胞の活性化が図られたようです。

テーマ

人の身体は治るようになっている

i P S と他の幹細胞の不思議

・・・(常盤)

細胞に関する最新の研究成果から、その不思議さについて解りやすい説明がされた。人間の体に自然の治癒力ともいうべき現象が見られるが、これは人が意識的に何かをすることなく細胞自体が傷ついた細胞を再生させることによるものである。再生とは傷ついた細胞が分裂して新しい細胞を作るのではなく、どこかに潜んでいた組織幹細胞が体細胞に変化して傷ついたものと同じ細胞を作り出す現象をいう。E S 細胞とか i P S 細胞というのはこの細胞の再生をさせるために作りだされたもの(多能性幹細胞)である。これらの幹細胞は、再生医学(医療)の主役として、これまで治療法のなかった難病の治療に多大な貢献をするであろうことが期待されている、等々の説明があった。

野鳥の好む樹木・・・(船津、野口、野倉)

野鳥を観察するのにその好む樹木が解れば、見つけ出すことが容易になるので、植物との関係を知ることが助けになるとの観点から、身近な野鳥の好む植物について調査した結果をクイズにして楽しんだ。選んだ野鳥はキジバト、コゲラ、オナガ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ。三択方式で出されたクイズの答えが意外な樹木のことがあり、頭の体操になるとともに、今

後の参考になったのではと思われる。

<参加者>神部充、間野吉幸、野口紀子、桑森亮、石渡成紀、畠中暁美、佐藤さなえ、常盤孝義、高波宣子、古出洋子、類地佑子、鍋倉妙子、田中功、大久保陸夫、西嶋昭生、小林美智子、村井みとい、浅井久、青木典子、中根忠、松村洋子、芹沢正子、常盤保子（担当）船津登、野口隆也、野倉元雄 計 26名

1月役員会報告

日 時 平成 30 年 1 月 14 日(日)
13:00~16:00

場 所 水の館 3F 研修室

出席数 18 名

議 事

1. 平成 29 年度の反省と 30 年度の活動に向けて

資料に基づき検討し、承認されました。今後、以下の項目を柱に次年度事業計画案を作成することになります。

また、定例手賀沼探鳥会での参加者の安全確保など運営体制に改善の余地ありとの意見があり、これを受けて、船津副会長を中心に人選し、運営体制整備の検討を進めることになりました。

魅力ある探鳥会の検討、開発（29 年度から継続）

会員を増やす活動の推進（同上）

各種イベント等への一般会員の参画拡大（同上）

各種委員会等の活動推進、他団体等との交流（同上）

野鳥サロンの休止とそれに代わる勉強会の検討

これまでに開発した諸ツールを活用した積極的な啓発活動

2. ほーほーどり 261 号掲載予定記事

会報 261 号掲載記事について、資料に基づき検討し、執筆担当等を決定しました。

3. 第 3 四半期会計報告

会計担当が資料に基づき報告し、異議なく了承されました。

4. 第 29 回「野鳥サロン」について

検討中で、詳細は行事案内をご覧ください。

5. 報告事項

次の事項が報告されました。

市民のチカラまつり出展結果

対外対応状況

事務局報告事項

その他

- ・ 29 年度当会活動の記録 DVD 作成について担当から報告
- ・ 30 年度上期行事計画のうち裏妙義・伊香保森林公園探鳥会の日程について、担当幹事から 1 週間遅らせる変更提案があり、提案通り承認されました。これにより、同探鳥会の日程は 5 月 27 日(日)~28 日(月)となります。
- ・ また、役員会後日に映写会・懇親会についても担当幹事から 1 週間前倒しの変更提案があり、提案通り承認されました。これにより、映写会・懇親会の日程は 7 月 15 日(日)となります。

以上

【啓発・支援活動】

「冬鳥に会いに行こう」探鳥指導

千葉県主催の「平成 29 年度千葉県環境講座『冬鳥に会いに行こう!』」が、1 月 7 日に開催され、当会は、会員による探鳥指導と間野会長の講演で参加しました。

手賀沼の探鳥では 5 班に別れ、当会会員の誘導で手賀沼遊歩道を探鳥しました。ホオジロ、オオジュリン、カンムリカイツブリ、マガモ、コガモ、オオバン、モズ、ツグミなど手賀沼の冬鳥を参加者にはたっぷり楽しんでいただきました。中でも、至近距離でオオタカを見ることができ、美しいカワセミにも出会い、大変喜んでいただきました。

昼食後、鳥の博物館 2 階多目的ホールで間野会長の講演が行われました。当会の長年の手賀沼での水鳥の観察記録に基づいた、「手賀沼の環境と水鳥の変遷」の講演を皆様は、興味深く聴き入っていました。

実施：環境パートナーシップ千葉

参加者：千葉県公募一般市民 約 30 名

探鳥指導：間野吉幸、桑森亮、船津登、相良直己、千葉洋、弘實和昭 計 6 名

手賀沼船上冬鳥観察会

毎年恒例、我孫子市主催の環境レンジャーネイチャーイン「手賀沼船上冬鳥観察会」が、1月28日に開催され、当会は、会員による探鳥指導で支援しました。

公募で参加された市民28名(内子供7名)、主催者の環境レンジャー3名、当会会員3名が船上で探鳥指導を行いました。

例年に無い寒波到来、ハス群生地など手賀沼の広いエリアが結氷している寒い朝、水鳥たちは岸边ではなく、沼の中央に群れています。頭上を飛翔する様々なカモの群れ、沼の至るところでカンムリカイツブリを観察、また、ミコアイサを見ることもでき、ミサゴ、ノスリ、チュウヒ、トビなどの猛禽も身近に見えます。砕氷船のように、水面の氷を砕きながら進む船、いつもより大きな音がする故か、近づく前にミサゴも、カモたちも飛び立ちます。例年ほど、近くまで寄ることができないのが多少残念でした。1時間程の探鳥で、水鳥中心に32種もの鳥に出会うことができました。手賀沼公園に戻り、下船しようとした瞬間にカワセミが船着場にお出迎え、子供たちも大喜びでした。岸边からは見ることでできない手賀沼の水鳥を参加者にじっくり観察いただき、楽しんでいただきました。

主催：我孫子市手賀沼課

参加者：我孫子市公募一般市民 28名

<認めた鳥> コブハクチョウ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、ミコアイサ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、ユリカモメ、セグロカモメ、クロハラアジサシ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ノスリ、カワセミ、ハシボソガラス、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ホオジロ、オオジュリン、モズ 計32種

探鳥指導：桑森亮、松本勝英、相良直己

(間野会長は環境レンジャーとして参加)

亀成川を愛する会探鳥会探鳥指導

今年度も、恒例の亀成川を愛する会主催の探鳥会「亀成川流域の里山散策シリーズ

『第16回 冬鳥を探そう』が2月4日(日)に開催されました。

当会からは、間野会長はじめ、野口(隆)、桑森、鈴木、船津、松本、相良の7名が探鳥指導を行いました。

今回は公募で参加された一般市民の方が32名(内子供17名)、主催者メンバー12名が参加、当会会員を加え総勢51名の大所帯での盛大な探鳥会になりました。

牧の原地域交流センター駐車場に集合、スタート時は分厚い曇空、雨もぱらつき前途が危ぶまれましたがすぐに太陽が顔を出し、快晴に……。小春日和の青空の下、絶好の探鳥日よりとなりました。

その結果、別所谷津公園調整池での予定のオシドリ、マガモ、ホシハジロなどの水鳥だけでなく、宅地造成がほぼ完成し、すっかり変貌した園沿いの遊歩道では、コゲラ、シジュウカラ、メジロの声に耳をすませ、古新田川沿いの田圃・樹林ではホオジロ、カシラダカ、アオジなどが次々と登場、ジョウビタキのメスが暫く間近でポーズをとってくれました。空を見上げるとオオタカ、ハイタカの出現、折り返しての帰路ではノスリも見送ってくれました。合計32種もの野鳥に出会うことができました。(日向ぼっこのタヌキも！)

当会会員の丁寧な説明とスコープで間近に見る野鳥に目を輝かせ、参加の子供たちのみならず大人たちも大喜びでした。

野鳥ビンゴでは、満点の8ビンゴの方が何人も出るなど、全員が複数ビンゴを完成させ、ご褒美の野鳥カードに大満悦、素晴らしい探鳥会でした。当会会員の裾野を広げる上でも役立ってくれると考えます。

(以上「啓発・支援活動」3件 記：相良直己)

鳥 だ よ り

手賀沼が活気にあふれています。この季節に来る鳥は、夏鳥の5倍もいるのですから賑やかなわけです。

ヒバリによく似たセッカやピンズイ、オオジュリンやタヒバリなどは漂鳥・冬鳥ですが、見分けにくい鳥たちです。初心者には全部スズメに見えてしまっていますが、識別できるようになるのも探鳥の大きな楽しみのひとつでもあります。

本来夏鳥のヒクイナが、滝下広場の近くで越冬していて、多くのカメラマンを集めていました。ジョウビタキやアカハラなどツグミの仲間も多く見ることができました。カモの仲間では、オシドリやトモエガモが来ていますが。ホシハジロは例年になく1000羽と大群で現れました。珍しい鳥では、イカルチドリ、クロハラアジサシ、ヒシクイなどが楽しませてくれています。

さて、本項「鳥だより」の事ですが、この項はできるだけ数多くの情報を整理し正確にお届けするのが役割です。今後とも多くの人に送っていただきたいと思います。そしてそのたよりの中に入れて頂きたいのが、皆様今年(今季)初めて見た場合「初認」、さえずりや笹鳴きなどを聞いた場合「笹鳴き初音」というふうに、備考欄に書き込んでお送り頂きたいのです。「鳥だより」は皆様の情報のとりまとめであり、貴重な記録です。

是非皆様ご参加ください。

11.22【布佐平和台】マカウ(1) 宅地の庭より鳴き声	鈴木静治	林の中を飛ぶ	船津登
11.22【泉村新田】ツカ(2) ススキに止る	船津登	11.29【岡発戸】ツグリ(7) 耕作田圃で採餌	桑森亮
11.22【泉村新田】材カ(2) ススキに止る	船津登	11.29【岡発戸】死バリ(5) 耕作田圃で採餌	桑森亮
11.22【片山新田(手賀沼側)】ヒクイ(1) 葦原へ飛んで入る	船津登	12.01【手賀沼】シガ(2)上沼1下沼1 金子雅幸・船津登・桑森亮	
11.23【戸張新田】ハブサ(1) 鉄塔95上部より獲物を探していた。	吉田隆行	12.01【手賀沼辺】フカ(1)下沼1 金子雅幸・船津登・桑森亮	
11.24【片山(手賀の丘公園)】トラツミ(1) 飛んできて木に止る	船津登	12.01【手賀沼辺】フカ(1)上沼1 金子雅幸・船津登・桑森亮	
11.24【片山(手賀の丘公園)】ルビ(2) 高い枝に止り鳴く	船津登	12.02【手賀新田(手賀川)】ミアツ(3) 水面を泳ぐ	船津登
11.24【箕輪新田地先上沼】ツカ(1) ボート乗り場棧橋湖面で休息	吉田隆行	12.03【小文間】ルビ(250) 川の合流部に群れる	鈴木静治
11.24【箕輪新田地先上沼】カハラツ(3) 湖面上を広い範囲で飛翔	吉田隆行	12.03【箕輪新田地先上沼】カハラツ(1) 湖面でダイビング採餌しボート乗り場の低い杭に止まる	吉田隆行
11.27【酒井根6丁目下田の森】材カ(1) 林縁を飛翔し移動	飯泉仁	12.04【千間橋】ルビ(1) 川原、田の上を滑空	鈴木静治
11.27【手賀新田】コマル(3) 田で採食するカラスの群れの中に混じる	船津登	12.06【布佐平和台】カハラツ(1) 調整池の水溜りで休む	鈴木静治
11.27【片山】カハラツ(1) 電柱に止る	船津登	12.06【片山(手賀の丘公園)】ルビ(1) 上空を横切る	船津登
11.27【片山(手賀の丘公園)】カハラツ(1)		12.06【片山(手賀の丘公園)】カハラツ(1) 林の中を飛ぶ	船津登
		12.06【片山(手賀の丘公園)】カハラツ(1)	

- 木に止る 船津登
 12.07【岡発戸新田】アライ(1)
 岸の柳、桜の茂み中を動く
 鈴木静治・船津登・間野吉幸・古出洋子
 12.08【片山(手賀の丘公園)】アトリ(3)
 桜の木に止る 船津登
 12.09【酒井根 6 丁目下田の森】アガラ(1)
 斜面林の中から鳴き声 飯泉仁
 12.11【片山(手賀の丘公園)】ビンスイ(2)
 地上で採食 船津登
 12.11【北新田】ヒトリ(1)
 並木小傍の水路 畠中暁美
 12.14【別所】オドリ(32)
 調整池の木の陰を泳ぐ 鈴木静治
 12.15【布瀬新田】ハブサ(2)
 鉄塔上段、中段に止まる 鈴木静治
 12.15【北新田】タギ(1) 水路
 畠中暁美、松田幸保、桑森亮他 12 名
 12.15【北新田】ツバ(1) 水路
 畠中暁美、松田幸保、桑森亮他 12 名
 12.15【北新田】カダカ(6) 排水路傍
 畠中暁美・松田幸保、桑森亮他 12 名
 12.17【光ヶ丘廣池学園】ルビ(1)
 貴賓館の敷地内から鳴き声
 飯泉仁・飯泉久美子
 12.17【大井新田先手賀沼】ルビカヅリ(1)
 水面を移動 飯泉仁・飯泉久美子
 12.18【泉村新田】タリ(2)
 上空を飛ぶ 船津登
 12.18【片山(手賀の丘公園)】トラツミ(1)
 地上から飛び木に止る 船津登
 12.18【片山(手賀の丘公園)】ビンスイ(7)
 地上で採食 船津登
 12.18【染井入新田】材カ(1)
 ススキから菰田に降りた 吉田隆行
 12.19【片山新田(手賀沼側)】クヰ(1)
 葦の根元で動く 船津登
 12.20【江蔵地】杉バ(1000)
 川中で群れる 鈴木静治
 12.22【片山(手賀の丘公園)】ウ(1)
 道にうづくまる 船津登
 12.23【江蔵地】ウバ(1)
 川中に浮かぶ 鈴木静治
 12.28【下沼田】フウバ(1)
 強風の田を低空で飛び、杭に止まる
 鈴木静治
 12.28【発作】コウ(1)
 コウの群れに混じる 鈴木静治
 12.29【片山(手賀の丘公園)】アガラ(1)
 木に止る 船津登
 12.31【江蔵地】カダカ(5)
 道より斜面林の藪に飛ぶ 鈴木静治
 12.31【布佐】ミコ(1)
 川の上空を飛ぶ 鈴木静治
 12.31【布佐】シ(1)
 川原の木の頂に止まる 鈴木静治
 1.01【高野山新田】シヨビ(1)
 雄が遊歩道脇を移動 飯泉仁
 1.01【布瀬】フウバ(1)
 水田の土を盛ってあるエリアで餌をねら
 っていた 飯泉仁
 1.01【高野山新田地先(手賀沼)】バソ(3)
 葎の湿地で採餌 桑森亮
 1.02【小文間】杉バ(800)
 河口に群れ泳ぐ 鈴木静治
 1.02【布佐平和台】イカド(2)
 調整池の水溜りを歩く 鈴木静治
 1.05【染井入新田地先】フウバ(1)
 農地上を飛翔 桑森亮
 1.05【染井入新田地先(手賀沼)】ハイフウバ
 (1)沼と葦原上空を飛翔 桑森亮
 1.06【中峠】ヒトリ 水路で
 松本勝英
 1.07【酒井根 6 丁目下田の森】材カ(1)
 飛翔し北方向に移動 飯泉仁
 1.07【ヒドリ橋】ノリ(1) 上空飛翔
 吉田隆行
 1.08【片山(手賀の丘公園)】ルビ(15)
 木に止る 船津登
 1.09【泉村新田(手賀沼側)】ヒクヰ(1)
 水辺を動く 船津登
 1.11【下沼田】ハブサ(1)
 夕暮時、獲物を脚にぶら下げ飛び、鉄塔
 の上で食べる 鈴木静治
 1.11【上沼田】ノリ(1)
 農道の電柱に止まる 鈴木静治
 1.11【片山新田】ミア(1)
 沼の岸近くを泳ぐ 鈴木静治
 1.14【光ヶ丘廣池学園】材カ(1)
 上空を北方向に移動 飯泉仁
 1.14【光ヶ丘廣池学園】ルビ(1)
 藪の中から出現 飯泉仁
 1.15【北新田】タリ(21) 田圃、飛翔
 畠中暁美・松田幸保・佐藤さなえ他 9 名

- 1.15【北新田】セッカ(1) 越流堤傍の茂み
畠中暁美・松田幸保・佐藤さなえ他 9名
- 1.15【北新田】ヒ(2) 飛翔
畠中暁美・松田幸保・佐藤さなえ他 9名
- 1.15【北新田】死バ(70) 北新田、
畠中暁美・松田幸保・佐藤さなえ他 9名
- 1.15【片山(手賀の丘公園)】カウ(1)
木で休む、2羽のカラスがちょっかいをだす
船津登
- 1.15【片山(手賀の丘公園)】トラツミ(1)
地上で採食
船津登
- 1.15【片山(手賀の丘公園)】ルビ(3)
小枝に止る
船津登
- 1.16【布佐平和台】クサ(1)
調整池の叢の中で餌探し
鈴木静治
- 1.16【大井新田(ヒドリ橋)】クサ(1)
水辺を動く
船津登
- 1.19【別所】オドリ(30)
調整池を泳ぐ
鈴木静治
- 1.20【岡発戸新田】ヒロカイツブリ(1)
水面を移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【岡発戸新田】アリス(1)
木の枝で休んでいた
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【大井新田先手賀沼】シガ(1)
水面の杭に止まり休む
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【片山新田先手賀沼】ウラ(1)
西方向から葦原に降り立つ
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【片山新田先手賀沼】カウ(1)
葦原の中から飛び立ち上空を飛翔
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【箕輪新田先手賀沼】ミアイサ(1)
水面を移動
飯泉仁・飯泉久美子
- 1.20【布佐平和台】カウ(2)
夕暮時、調整池の水溜で鳴き合う
鈴木静治
- 今回寄せられた鳥の全種名
アオサギ、アオジ、アカゲラ、アカハラ、
アトリ、アリスイ、イカルチドリ、イソシギ、
イソヒヨドリ、ウグイス、ウズラ、エナガ、
オオタカ、オオバン、オオジュリン、オカヨシガモ、
オシドリ、オナガ、オナガガモ、カイツブリ、
カケス、カシラダカ、カルガモ、カワウ、
カワセミ、カワラヒワ、

- カンムリカイツブリ、キジ、キジバト、キセキレイ、
キンクロハジロ、クイナ、クサシギ、クロハラアジサシ、
ゴイサギ、コガモ、コクマルガラス、コゲラ、
コサギ、コチョウゲンボウ、コハクチョウ、
コブハクチョウ、シジュウカラ、シメ、
ジョウビタキ、シロハラ、スズガモ、
スズメ、セグロカモメ、セグロセキレイ、
セッカ、ダイサギ、タゲリ、
タシギ、タヒバリ、チュウヒ、
チョウゲンボウ、ツグミ、ツルシギ、
トビ、トモエガモ、トラツグミ、
ノスリ、ハイロチュウヒ、
ハイタカ、ハクセキレイ、
ハシビロガモ、ハシブトガラス、
ハシボソガラス、ハジロカイツブリ、
ハヤブサ、バン、ヒクイナ、
ヒシクイ、ヒドリガモ、ヒバリ、
ヒヨドリ、ビンズイ、フクロウ、
ホオアカ、ホオジロ、ホシハジロ、
マガモ、マヒワ、ミコアイサ、
ミサゴ、ミヤマガラス、ムクドリ、
メジロ、モズ、ヤマガラ、
ユリカモメ、ヨシガモ、
ルリビタキ 計 94種
<番外種> カワラバト

今回の投稿者の総投稿件数

吉田隆行	45
金子雅幸・船津登・桑森亮	96
桑森亮	32
松本勝英	13
船津登	176
畠中暁美	4
畠中暁美・松田幸保・桑森亮他 12名	33
畠中暁美・松田幸保・佐藤さなえ他 9名	34
飯泉仁	343
飯泉仁・飯泉久美子	160
百瀬喬	1
平岡考	7
木村稔・岩本二郎	1
鈴木静治	280
鈴木静治・石井俊子	3
鈴木静治・船津登・間野吉幸・古出洋子・金子雅幸・蒲田知子	31
鈴木静治・船津登・間野吉幸・池田日出男・金子雅幸・蒲田知子	28
総計	1287

(弘實和昭)

【会員だより】(ab-yacho より)

【くちばしがイスカのように食い違っている】

2017.11.23 新堀正則

新参者の鎌ヶ谷の新堀です。

エリアが違うのですが、昨日くちばしがイスカのように食い違っているセグロセキレイを見つけました。初めて見たので皆様に報告いたします。

【Re：嘴がイスカのようなセグロセキレイ】

2017.11.23 神部充

嘴が交差しているセグロセキレイの写真、大変興味深いです。

イスカの嘴が交差していることは、一般的に「左右互い違いになっており、この嘴を上下を少し開き加減にしてマツボックリ(マツカサ)の間に入れ込み、その嘴を合わすと、先が曲がって食い違っているためにマツボックリの笠の間を押し広げ、中の種子を容易に取り出すことができる。なので、卵からかえって間もないヒナは普通の嘴をしているが、1~2週間経つと先が交差してくる。」と説明されています。

では、写真のセグロセキレイの嘴は、何故交差しているのでしょうか？

【Re：嘴がイスカのようなセグロセキレイ】

2017.11.29 小田谷嘉弥

鳥の博物館の小田谷です。

ご依頼がありましたので、嘴の交差したセグロセキレイについてコメントいたします。

通常、セグロセキレイでは普通の小鳥と同じように、上嘴と下嘴の先端はほぼ同じ長さで、上下に食い違うことはありません。新堀様が撮影されたセグロセキレイのように嘴が交差したり通常よりも長く伸びたりしている個体は他の鳥種でもしばしばみられます。

原因についてははっきりとは分かりません。あくまで可能性ということでは、先天的なものでは、嘴の形成をつかさどる遺伝子の異常、後天的なものでは、ウイルスによる嘴の形成不全や加齢などが考えられると思います。以上、ご参考になれば幸いです。

【キビタキがクモの巣に】

2017.11.24 新堀正則

1ヶ月前に八柱霊園でキビタキのメスがクモの巣に引っかかって宙吊りになった事件がありました。まさか、蜘蛛の巣がそこまでの強度があるとは思っていませんでした。

口元にクモを啜っていました。観察者の一人が小枝を投げて救い出しました。

彼女はもう少しでミイラ取りがミイラになるところでした。

【手賀沼下沼、ツルシギ！】

2017.12.15 百瀬喬

12月13日、9時02分に染井入落水路でツルシギ1羽を確認しました。

春と秋の渡りの途中で手賀沼周辺でもたまたま確認されているようですが、12月半ばというのは珍しいように思いますので、報告します。

鳥博に写真をつけて報告しましたら、学芸員の小田谷さんから「雨覆や三列風切に幼羽が残っているので、今年生まれの第一回冬羽だと思います」と教えていただきました。

【中峠にトラツグミ見参！】

2018.1.22 松本勝英

雪のぱらつき始めた今朝9時半ごろ、いつものルリビタキのポイントでトラツグミが出現してくれました。動いてくれたので気づいた位、枯れ草原に同化していて見逃すところでした。双方で「固まって」にらめっこし、数秒後藪に消えてしまいましたが、私の方は、息が上がり、しばらく呼吸が苦しい初見合いです。

【トモエガモの群れ飛来】

2018.1.21 桑森亮

手賀沼のヒシクイ、ツルシギを遅ればせながら見てきました。
手賀沼でのトモエガモの群れにも出会えました。

【手賀沼上沼にホオジロガモ確認】

2018.1.30 船津登

今日、10時半ごろヒドリ橋東の大井新田、上沼で潜水を繰り返す1羽のホオジロガモを確認しました。15分後戻るともう確認出来ませんでした。
今年は、手賀沼にトモエガモが多く見られるなど、いつもの年と違うように感じられます。

会からのお知らせ**<2017年度会の活動の記録 DVD 配布>**

今年度も、一年間の当会活動の記録をまとめたDVDを作成中です。このDVDには、各種探鳥会や野鳥サロン、JBF2017などの各種イベント参加の記録や、映写会、懇親会などの当会の活動をはじめ、映写会での発表作品、写真集への応募写真、動画も収録されています。さらに、今年度は当会作成スライドショー、JBF2017海外出展ブース(台湾、モンゴル)紹介スライドショー、鳥の博物館斉藤前館長講演会講演資料の付録も収録されています。

ご希望の方は担当幹事相良、北崎までお申し込みください。(但し、会員限定です)
当会総会(4月8日)以降、実費(@300円)引き換えでお渡しします。
なお、写真集写真応募者、映写会発表者には無償にて進呈いたします。

<新入会員紹介>

相馬唐代子 (白井市在住)
宮本秀樹 (稲敷郡阿見町在住)
藤川敏彦 (野田市在住) <再入会>
野尻清敬・野尻恭子 (柏市在住)
森下悟 (野田市在住)

<年会費納入のお願い>

平成30年度の年会費納入の時期が来ました。会報に郵便局の振込用紙を同封しましたので、4月10日までに払い込みをお願いします。なお、例会(3/11、4/9)、総会(4/8)等で会計に直接お支払頂く場合は振込用紙を破棄してください。

ほーほーどり No. 261 (2018年3~4月号)

発行 2018年3月1日

発行人 間野吉幸

編集人 青木典子、古出洋子、小玉文夫、千葉洋、野口紀子、松本勝英、宮下三禮

事務局 〒270 1143 我孫子市天王台 2-15-17 桑森亮 Tel: 04-7182-3149

URL <http://abikoyacho.org/>

郵便振替 00140 - 2 - 647587 我孫子野鳥を守る会

会費 年会費 2,000円(大学生・高校生 1,000円、中学生以下 500円、家族会員 無料)